



平成30年2月9日（金） 発行

節分の日に5歳児の鬼たちが「一緒に鬼になって遊ぼう」と鬼のパンツと風船で作った鬼を持ってきました。突然の鬼の登場に、興味を持って近づく子どもや、遠くから「誰だろう…？」というような表情で様子を見ている子どもがいました。しかし、自分でシールを貼った鬼のパンツと帽子を身につけ「鬼のパンツ」を歌ったり、新聞紙の豆を投げたりしていると、徐々にみんなが笑顔になっていき楽しい雰囲気の中で遊ぶことができました。“豆まき”の理解はまだ難しいですが、環境や歌を通して雰囲気で感じ取ることができたと思います。

立春を迎えてもまだ寒い日は続いています。ひよこ組では「♪は一るよこい、は一やくこい」と歌いながら暖かい春の訪れを待っています。



★自分でお片付け★

日々、大人のしていることを見て、聞いて、実践していきながら成長していく子どもたちです。最近はおやつを食べ終えた後、自分のお皿とコップを配膳用のお盆まで持って片付けをするようになりました。お盆に食器を置くと、保育士の顔を見て「できたよ!」というような表情をしており、「上手にお片付けできたね。」と保育士が声をかけると、満足そうに手洗いをしに行っています。食器を運ぶときは落とさないようにとゆっくり歩く姿が可愛らしいです。食事後は、ごちそうさまでしたの挨拶→食器の片付け→手洗いという順序が身についています。



先日少しの時間ですが、すみれ組に遊びに行きました。ひよこ組とは違う保育室に、興味津々の子どもたち。特に個人ロッカーのマークと手洗い場が人気で、早くもすみれ組で過ごすことを楽しみに待っているようでした。

2月24日（土）は保育参観があります。
ひよこ組での2回目の保育参観です。
10月の姿よりさらに成長した子どもの姿を見ていただけるよう計画しております。

0歳児担任：福岡・齊藤・道畑・井上



平成30年2月9日(金)

例年に比べ、今年は寒い日が続いています。部屋の中で遊んでいるとき、ふと外を見ると雪が。雪が降っていることに気がついた子どもたちは遊ぶ手を止め、「ゆきがふつとるね〜」「ゆき〜」と窓へ駆け寄っています。保育士が少し窓を開けると部屋の中に風につられた雪が入ってきます。「頭に（雪が）ついとるよ」「つめたーい」と雪を楽しんでいます。保育士が雪だるまを作ってベランダに置いておきました。何日かたち、雪だるまが解けてしまうとそれをみた子どもたちは「いえにかえった」「〇〇のお家におるよ」と言いながら夢をたどっている子どもたちです。

「もちつき」

先月の22日に餅つきがあったので、すみれ組で餅つきの様子を見に行きました。園庭や遊戯室でもちをついている保育士、丸めている保育士をみつけると「がんばって〜」と応援したり、「ぺったん、ぺったん」といいながらみていました。



春がきたよ

たんぼぼ組の鬼と福の神がきました。お面をかぶっていたこともあり、初めは固まっていた子どもたちですが保育士やたんぼぼ組さんと一緒に「おにわ〜外」と豆を投げたり、みんなで「おにのパンツ」と踊ったりしました。自分たちで作った鬼のお面が気に入ったようでお迎えが来られるとすっかり鬼の姿になったすみれ組の節分でした。



わらべうた 紹介♪

♪ いちり（両足の親指を掴む） にり（足首を掴む）
さんり（ひざを掴む） しりしりしり〜（おしりをくすぐる）♪

「いちり、にり。。。」とかけ声に合わせて子どもたちの指や足首などを掴む触れ合い遊びです。触れ合い遊びが好きな子どもたちは、「みなもして〜」「あこちゃん〜」と保育士の近くに寝転がり、順番待ちをしています。お気に入りの一つのわらべうたなので、ご家庭でも触れ合い遊びを体験してみてください。子どもたちのくすぐったくて笑っている笑顔がみられますよ。



平成29年2月9日(金)

立春が、過ぎたとはいえ、まだまだ寒い日が続いています。そんななかでも、子ども達は元気いっぱい園庭に出て遊んでいます。

園庭に出て、雪がつもっているのを見つけると、一目散に走っていき、手についた雪の感触を楽しみました。冷たい雪を集めて、保育士と子どもが雪だるまを作りました。出来上がった雪だるまを、見て「かわいい」や「すごい」と喜びながらも、冷たさでかじかんだ手をコートポケットにしのばせ、「つめたかったね」といいながら雪だるまに喜ぶ子ども達でした。



～わらべうた遊び

歌詞は、こんこんさん 遊びましょ？ 今寝てます。

こんこんさん 遊びましょ？ 今顔洗ってます。

こんこんさん 遊びましょ？ 今ご飯食べてます。

なんのおかずで？ へびのいきたん。

友だちと手をつないで輪になり、保育士とこどものかけあいを楽しみながら遊んでいます。

子ども達とあそんでいるわらべうたの一つです。



～今月の絵本～ 「おしくらまんじゅう」

お饅頭が、おしくらまんじゅうをするのですが、そのなかで色々なお友達が出てきます。

普段から、よんでいることもあり、次のページを開く前に、「先生次は納豆やない」と、楽しみながら読んでいる絵本です。



ちゅうりっぷ組 桑原 唐木



平成30年2月9日(金)

1月…いく、2月…にげるといふことわざを耳にします。「餅つき」を見たり「節分」で豆まきをしたりと子どもたちは、行事を楽しんでいました。立春の日には保育園に、福の神が春の花を告げる花を届けてくれ、春の予感がいっぱいの温かな雰囲気に包まれました。

立春後の厳しい寒さにも、子どもたちの元気な笑顔が保育園を包んで楽しい春への道すじを作っています。

ある晴れた日に・・・

明るい天気の日でも、風は冷たくマフラーや手袋をして登園してくる子どもたちです。ある日、お部屋に入るとすぐに、「今日外に行く？お日様でてるよ」とあきら君が言ってきました。「どうしようか？みんなに聞いてみようね」というと、そばにいた子どもたちも「行きたい！」と元気な返事がすぐにかえってきました。靴を履いて元気に外に飛び出す子どもたちは、おしくらまんじゅうや追いかけごっこを始めました。しばらくすると、「せんせいー来て！」とかいと君の声に駆け寄ると、てんとう虫がいました。「今日はおひさまが出てるからてんとう虫も出て来たんじゃない？」と、かいと君が言うと、「そうかもね」「でも、寒いから死んじゃうんじゃない」「どうする？」と子どもたちが考え始めました。すると「暖かいところに連れていこう」となり、お日様が当たっている花壇の花のそばにそっと、てんとう虫を移動していました。この日はてんとう虫も友だちの一員として、お日様の日差しの下で元気に遊びました。



1.2.3…20!

マットにお皿を置いて、お食事の準備をしていたれいなちゃんとななちゃん。「せんせいも座って！」と言われて、横に座り食事の準備を見ていました。3枚のお皿の一つずつ違う食べ物をのせ終わると「せんせい食べていいよ」と言われたので、「おなかですいたから食べものが一番多いお皿がいいな」というと、「じゃあ待って数えるよ」と言って、お皿の食べ物を数え始めました。今までは1から10までは数えられたのですが10からがあやふやでした。でも、この日は時間がかかりながらも、二人で20まで数えることができ、3つのお皿のうち、一番多い20個入ったお皿をくれました。



遊びながら、数を数えたり色分けしたりと知識の広がりや思考力の育ちを感じることが多くなっています。こどもの「なぜ」「どうして」に対して、共に考え楽しみながら、導くことができればと思います。

こすもすぐみ担任：崎野



H. 30. 2. 9(金)

節分の日、たんぽぽ組の鬼役の子ども達が部屋に来て、ひまわり組の子ども達に、節分についての由来をペープサートで分かりやすく、ゆっくりとお話してくれました。お話が終わると、鬼役の子ども達がひまわり組に「心の中の鬼はなんだ？」と質問をしていました。一人ひとりが「怒りんぼう鬼」や「なき虫鬼」「甘えん坊鬼」と、退治したい、こうなりたい、という強い思いをたんぽぽさんとのやりとりで、発言していました。

ひまわり組の子ども達は、真剣にペープサーの話を知ったり年長児になると、リーダーになって、行事をすすめていくんだという、憧れを持ったのではないかと思います。

保育の第 4 期、一年間の総仕上げのこの時期に、年長児とのやり取りやコミュニケーションを持てた事、又、進級への憧れを持つことが出来、良い経験になった節分だったのではないかと思います。

豆まきをした後、「心の鬼を退治した」や「鬼がいなくなったから、心がぼかぼかしてきた」など、子どもたちの感想が聞かれました。



踊りが始まります！

たんぽぽぐみの子どもたちが、遊戯室で踊りの練習をしている姿を見て、ひまわり組の子どもたちが「たんぽぽさんみたいに踊ってみたいな」と、話をしていました。

子ども達の、年長児への憧れを感じ、踊りをしてみたいという意欲が高まってきているので、2 月の中旬ごろから踊りが出来たらと、予定しています。

ひまわり組の新しいお友だち F・Sさん

2 月から、ひまわり組の仲間になりました。

みんなで、沢山遊ぼうね



☆第11号☆



発行：平成30年2月9日（金）

立春を迎えましたが、まだまだ冷たい風に肩をすくめる日が続いています。今年は大寒波の訪れにより、辺り一面が雪化粧する日もたびたび見られ、そんな日は朝から雪の舞う窓の外の様子に釘付けで、うずうずしている子どもたち。寒さも忘れ園庭に飛び出していくと、「たんぽぽぐみの雪だるま作ろう！」「冷たーい」「ふわふわしてる雪と凍ってる雪があるよ！」と雪合戦や雪だるま作りがはじまり、鼻を赤く染めながら雪の感触を楽しんでいました。しかし、そんな中にも子どもたちは「太陽が出てくるとぽかぽかしてくるね」「空の上で、冬と春が“もうすぐ春ですよ”“まだまだ冬がいいよ”ってお話ししてるんじゃない？」と暖かくなってきた陽ざしの変化に気付き、少しずつ訪れる春を感じているようです。そんな子どもたちの心や身体の育ちを支えながら、力を蓄えた小さなつぼみが豊かな花を咲かせられるように願っています。



ほくたちの節分！

園長先生の集会で、他のクラスのお友だちに節分のこと分かってもらうためには、どうやって伝えたら良いだろうかと投げかけると、子どもたちの話し合いが始まりました。ふたば保育園の豆まきをどう計画しようか、0歳の赤ちゃんから4歳児が豆まきに参加するにはどのように伝えたらよいか年長組は、園全体の子どもたちが楽しんで参加できるようにと子どもたちで知恵を絞りました。園行事を自分たちのものとして形にすることは、保育士でも難しいことですが、5歳児14名は真剣に取り組み、2月2日の豆まきの行事に対して1月後半から取り組みました。しかし、初めはなかなかアイデアがでず子どもたちも“どうしたらいいだろう…”と頭を抱え悩んでいました。少しずつ「先生、節分のこと考えてきたよ」「良い考え思いついた」と話し合いが始まり、「赤ちゃんたちは、鬼が怖いと思うから、たんぽぽ組が優しい鬼になって一緒に鬼になって遊んだらどうかな」「みんなにお胸の中の鬼を追い出してほしいから僕たちに豆を投げてもらうのは？」「でも小さいお友だちは豆投げるのは危ないんじゃない？」と0歳から2歳までのクラスでは、どうしたら鬼を怖がらずに、自分たちの鬼を迎えてくれるだろうかと考え、そして同じ手作りの鬼のパンツを履き、一緒に鬼に変身して、風船の鬼を子どもたちで叩く面白さや手作りの鬼の

パンツに新聞紙で作った豆を投げ入れる楽しさを共有し、豆まきを楽しんでもらうということになりました。



以上児クラスでは「ひまわりさんとこすもすさんは、お話したら節分のこと分かってくれるかな?」「絵を描いてお話した方がわかるかも」「こすもすさんはお話が難しいかもしれないから、歌うのはどう?」とクラス別にわかりやすいようにするため、子どもたちなりに3歳・4歳の育ちに合わせた内容を考えていました。3歳児では、5歳児が『ホ・ホ・ホ』の替え歌をつくり、その歌に振りをつけて一緒に遊び、4歳児では、5歳児が節分についてのお話作りをし、なぜ豆まきをするのか、節分を迎えると少しずつ春がやってくるということペープサートにして表現することにしました。そして、豆まきでは5歳児の鬼に新聞紙で作った豆を投げとお胸の鬼を追い出してもらうことにしました。



子どもたちの思いはどんどん溢れ、節分への思いは大きく膨らんでいき、お話や豆まきの玩具作りが始まると“こっちはこうした方がいい”“これはもっとこうしよう”とお互いに意見を出し合い時には思いがぶつかり合いながらも、自分たちで創りあげていく喜び、楽しさに生き生きとした表情で取り組んでいました。

節分の当日、「赤ちゃんたち泣かないかな」「作った玩具で遊んでくれるかな」「何かどきどきしてきた」と緊張と不安に硬い表情の子どもたちでしたが、一緒に踊ったり遊んだりしていくうちに緊張も解れたようで、力を合わせ助け合いながら各クラスを回りました。たんぼぼぐみの優しい鬼たちは、0歳から4歳までの育ちに合わせた、豆まきの行事を考え、保育士でも難しいと思うことを友だちと協力し創りあげ、やり遂げた達成感や安堵感となり「はあー。うまく行って良かった」「赤ちゃんたち泣いてなかったし、玩具も喜んでくれたよ」「どきどきしたけど楽しかったね!」と春の訪れを感じさせるぱっと花の咲いたような表情で話しをしていました。